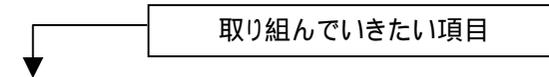


地域密着型サービス評価の自己評価票

( 部分は外部評価との共通評価項目です)



項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
. 理念に基づく運営				
1. 理念と共有				
1	地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	地域と社会に密着したホームを作りますという理念に基づき、開放された施設で、地域の方を招き入れ、多くの交流を図れる努力をしている。		大きなイベントや、定例の行事だけでなく、もっと多くの地域資源を活用し、グループホームの認知度を高める工夫をしてゆきたい
2	理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	生活リハビリを取り入れ、利用者の自立を目指す、という理念の下、職員と利用者が一緒に、毎日の家事などを行っている。		利用者への暖かな目線、人としての尊厳を守るという理念の実行のため、介護者としての在り方を、勉強会や研修で、更に学んでゆきたい。
3	家族や地域への理念の浸透 事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にしたい理念を、家族や地域の人々に理解してもらえよう取り組んでいる	定期的な運営推進会議、毎月の新聞発行などにより、当該ホームの普段の取り組みを知っていただくようにしている。イベントに関わらず、いつでもボランティアなどを受け入れる態勢を設けている。		
2. 地域との支えあい				
4	隣近所とのつきあい 管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄ってもらえるような日常的なつきあいができるように努めている	利用者との散歩、買い物の際に、近隣の方との挨拶や、会話を欠かさぬようにしている。		運営推進会議も含め、ぽっかぽかという施設の在り様などを理解して頂く場を、更に設けてゆきたい。
5	地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	利用者様を主とした各種イベントに、地域の方をお招きしている。また、運営推進会議では、地元町内会はじめ、老人会の方などにも参加をして頂いている。		イベントの大小にかかわらず、地域の方たちが気軽に立ち寄ることの出来る施設空間を作ってゆきたい。

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
6 事業所の力を活かした地域貢献 利用者への支援を基盤に、事業所や職員の状況や力に応じて、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる	ヘルパー養成研修の受け入れ先として、当該施設を提供している。また、管理責任者と主任計画作成担当者については、認知症サポーター講習を受け、サポーターとなっている。		他スタッフにも、日常生活の場で活躍出来る可能性のある認知症サポーターの位置づけを理解してもらい、積極的な参加を望みたい。
3. 理念を実践するための制度の理解と活用			
7 評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	評価に対する研鑽が出来るよう、過去の評価結果は、スタッフが閲覧出来るようにしてある。		評価結果から、改善、工夫の為、カンファレンスで伝えるなどして、グループホームの在り方に対する理解を深める努力をしている。
8 運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議を行う際には、参加者の率直な意見をうかがえるよう、曖昧な表現を避け、施設として真摯に報告、対応をしている。		ぼやかした表現を不要とする為の交流を、今後ともに施設として図ってゆき、よい議の場となる努力をしている。
9 市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	管理責任者によるこまめな市への連絡、相談により、当該施設の方針を理解していただいている。		今後も、地域包括支援センターとの協調が不可欠であり、そちらとの連絡相談も、あわせ行なってゆきたい。現在、運営推進会議に地域包括支援センターの方には来ていただいているので、市の担当者にも、参加していただけるように図ってゆきたい。
10 権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、地域福祉権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している	利用者様の中には、実際に権利擁護に関する制度を利用されている方もいらっしゃる、折りにふれ、研修を行い、学びの場としている。		今後、増えるとされている案件であり、地域密着型施設として避けてはならない事由であるので、これからも勉強会や研修を行い、更に理解を深めてゆきたい。
11 虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	勉強会の実施により、虐待の定義などについて、知識と理解を深めている。		定期的な勉強会の実施により、職員の知識と理解を継続させてゆきたい。

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
4.理念を实践するための体制			
12	<p>契約に関する説明と納得</p> <p>契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている</p>	<p>ご本人、あるいはご契約者とは、管理者及び主任計画作成担当者が面談をし、文書を見せるなどしながら、説明をさせて頂いている。ご契約者が、納得されるまでの時間を用意した上で、話し合いの場を提供させて頂いている。</p>	
13	<p>運営に関する利用者意見の反映</p> <p>利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている</p>	<p>運営推進会議には、ご家族も参加して頂いている。利用者様からの不平なども、普段のコミュニケーションをしっかりと図り、抽出できるよう努力している。</p>	<p>積極的な意見をうかがえるよう、日々の利用者様との関係を今後とも築き、それを活かせるようにしてゆきたい。</p>
14	<p>家族等への報告</p> <p>事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている</p>	<p>管理責任者、ユニットリーダーからの定期的な連絡に加え、月の請求書には施設で発行した新聞を同封するなどして、報告をしている。</p>	<p>月に一度、管理責任者や、ユニットリーダーから、自筆で手紙を書き、利用者様の状況などをお伝えしている。</p>
15	<p>運営に関する家族等意見の反映</p> <p>家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている</p>	<p>意見箱の設置をする事で、ご家族の意見を無記名でうかがえるようにしている。伺った意見に関しては、議題とし、職員で考えられる体制を設けている。</p>	
16	<p>運営に関する職員意見の反映</p> <p>運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている</p>	<p>カンファレンス、あるいは個別に時間をつくり、職員意見を抽出出来るように配慮している。</p>	<p>職員からの意見には、今後も耳を傾け、現場の声として、運営の指針となるよう更に聞いてゆきたい。</p>
17	<p>柔軟な対応に向けた勤務調整</p> <p>利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、必要な時間帯に職員を確保するための話し合いや勤務の調整に努めている</p>	<p>管理責任者による勤務調整により、各職員了解の下、対応をしている。管理責任者が基本的に現場にいますので、勤務に必要な人材と状況を把握しており、適宜調整を行っている。</p>	
18	<p>職員の異動等による影響への配慮</p> <p>運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている</p>	<p>極力、利用者様に負担のかからないよう、各ユニットの職員は、他ユニットの利用者様ともコミュニケーションを図れるよう、心がけている。合同の体操やイベント、毎日の散歩など。</p>	<p>異動職員には早い期間で異動の指示を行っており、異動前より、少しずつ異動先での勤務に就く機会を設けるなど、工夫をしている。</p>

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
5. 人材の育成と支援				
19	職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	市などでの研修会や勉強会の掲示を行うとともに、定期的な職場での勉強会を開催し、研鑽の場を提供している。掲示板を活用する事で、法人外の勉強会等の情報を、職員が目にする事が出来るようにしている。		
20	同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	現在、地域包括支援センターの介護支援専門員と社会福祉士には、運営推進会議にも参加して頂けるようになっており、情報の交換などもしてゆけるよう関係を構築している。		今後は更に同業者との交流の場を持ち、深める事で、施設職員の質、ひいては施設のサービスの質に繋がると考えている。
21	職員のストレス軽減に向けた取り組み 運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる	喫煙所や休憩室を設置する事で、職務中のストレスの軽減に努めている。また、年2回、暑気払いと忘年会を開催するなど、職員間の親睦の場を提供している。		職場の環境も含めて、更に働きやすい場となるように工夫をしてゆきたい。
22	向上心を持って働き続けるための取り組み 運営者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心を持って働けるように努めている	個別の面談やカンファレンス、日々の業務の中で、各職員の意見や提案を取り入れる事で、職員のやる気を引き出せる様努めている。		管理責任者や、ユニットリーダーが、スーパーバイザーとしての役割を果たし、職員の成長を促進させる一因となれるよう、自己研鑽を続けてゆきたい。
安心と信頼に向けた関係づくりと支援				
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応				
23	初期に築く本人との信頼関係 相談から利用に至るまでに本人が困っていること、不安なこと、求めていること等を本人自身からよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	ご本人との毎日の会話以外にも、個別に話をうかがい、何を欲していらっしゃるのかを知る努力をしている。居室でリーダーとの一対一の会話を行ったりもしている。その為の信頼関係づくりに関しても、配慮して行っている。		
24	初期に築く家族との信頼関係 相談から利用に至るまでに家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	窓口となる管理責任者と主任計画作成担当者が、アセスメントを兼ね、まずは傾聴し、当該施設がどのような協力をする事が出来るのか、ご家族が何を望んでいるのかを受け止められるように配慮している。		グループホームと御家族、ご本人が一体となってケアを行ってゆくのだという方針を、正しく、時間をかけてでも、理解を深めていただけるよう努力している。

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
25	初期対応の見極めと支援 相談を受けた時に、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	同一法人内の居宅介護支援センターや、デイサービスとの連携により、当該施設のみでの対応ではない、サービス提供に努めている。施設介護支援専門員、居宅介護支援センターの介護支援専門員との連携が図れ、どちらへ移行しても利用者様が不安とならないように努めている。		
26	馴染みながらのサービス利用 本人が安心して、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	まず、見学に来ていただき、ご本人と御家族での話し合いの場が持てるよう配慮している。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援				
27	本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながらか喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	自立支援の観点から、ご本人が何をしたいのか、何が出来るのかを、ご本人と共に考えてゆけるケアスタッフの育成しており、共に生活をしているのだという感を持っていただけるような関係を築いている。		ご本人と職員が協働し、イベントの立案ができるまでに職員の質を高めてゆきたい。
28	本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている	御家族の参加を広く募り、旅行等の企画を考えている。そういった場の提供により、ご家族も、ご本人を支える大切な柱である事を再認識して頂けるよう配慮している。		旅行に限らず、通常の面会などでも、ご家族とご本人が居室で心行くまで関わりあえる環境を、継続して提供してゆく。
29	本人と家族のよりよい関係に向けた支援 これまでの本人と家族との関係の理解に努め、より良い関係が築いていけるように支援している	職員は、ご本人と御家族との仲介者である、という意識を、勉強会、日々の業務の中で教育している。		職員が介入し過ぎない生活環境、ご本人と御家族が理解しあえる施設であるよう、環境を整えてゆきたい。
30	馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	ご本人が望む外出、親しい方への手紙等、出来る限りの支援に努めている。		
31	利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるように努めている	合同レクリエーションによる利用者様同士の連帯感の構築、気軽な利用者様同士の居室訪問など、職員がトラブルを避けられる配慮をしながら、よき関係が築けるようにしている。		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
32	関係を断ち切らない取り組み サービス利用（契約）が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている	ご本人あるいはご家族からの相談には広く応じ、助言や情報の提供を行っている。		
・その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント				
1. 一人ひとりの把握				
33	思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	ご本人との話し合い、ご家族との話し合いにより、ご本人の望む形の生活に近づける努力を続けている。		センター方式の導入を、管理責任者と主任計画作成担当者の間で協議中である。
34	これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居時のアセスメントはもちろん、入居後もご本人との会話などの中で、生活歴等を把握し、それを支援に活かせるようにしている。御家族の協力の下、毎月外出をされる利用者様や、定期的に手紙を書かれる利用者様など、ご自分の暮らし方を実践されている利用者様が多い。		
35	暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている	各利用者様には担当スタッフがあり、日々の生活について精査している。計画作成担当者は、担当スタッフとの話し合いによってケアプランを作成しており、ご家族に提示させて頂いている。		センター方式による、更に詳細な利用者様の把握が出来るよう、協議中である。
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し				
36	チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	利用者様にはそれぞれ担当スタッフがあり、計画作成担当者は、担当スタッフと検討をした上で、ケアプランを作成している。		
37	現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	ご本人の身体、精神的状況に合わせ、計画の見直しや変更を行っている。突発的な変化には、ご家族に連絡し、計画の調整や一時変更を了承頂いている。		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
38	個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個別記録、カードックスを活用する事で、職員間の情報共有、計画作成の際に役立っている。		個別記録の記入に関して、主観的ではなく客観的に記述が出来るよう、職員の意識を高めてゆきたい。
3. 多機能性を活かした柔軟な支援				
39	事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	提携医との連携により、健康管理や生活に準じた医療を受けられる体制を支援している。御家族の都合が悪い時などは、職員が対応し、外出の支援をする等している。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働				
40	地域資源との協働 本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している	社会福祉協議会からボランティア参加協力をしていただいたり、年1回消防隊を招き、消防訓練を行っている。運営推進会議には、民生委員にも参加をして頂いている。		
41	他のサービスの活用支援 本人の意向や必要性に応じて、地域の他のケアマネジャーやサービス事業者と話し合い、他のサービスを利用するための支援をしている	地域包括支援センターの介護支援専門員とは、運営推進会議等で情報交換をさせて頂いている。また、月一回の理美容や、毎日のマッサージなど、多岐のサービス提供をさせて頂いている。同一法人内ではあるが、居宅介護支援センターの介護支援専門員とは、連携をとり、様々な状況に対応出来るよう配慮している。		
42	地域包括支援センターとの協働 本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している	運営推進会議に参加していただき、当該施設の発展の為に意見交換などを行っている。		権利擁護の観点から、今後は更に地域包括支援センターとの協働が必要となる場面が増えてくると考えられる。更に関係を深め、利用者様やご家族の助けとなれるようにしてゆきたい。
43	かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	ご本人、ご家族との話し合いにより、必要である医療機関への定期的な受診が出来るよう支援している。また、可能であるなら、かかりつけ医を、当該施設の提携医に変更して頂いている。		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
44	認知症の専門医等の受診支援 専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している	提携医が、ご利用者本人との関係構築を成しており、必要に応じ、病院の紹介もして下さる環境である。		
45	看護職との協働 利用者をよく知る看護職員あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている	看護職員との契約、提携医、薬局との連携もあり、24時間体制での健康管理が可能となっている。日常の医療状況を把握している看護職員、医師と、24時間連絡の取れる状態であるので、突発的な判断を求められる時も、助言を頂ける環境にある。		
46	早期退院に向けた医療機関との協働 利用者が入院した時に安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している	入退院の際には管理責任者が対応に関わるようになっており、その際、医療機関との連携を図れるようにしている。病院との情報交換を行う事で、退院した後のケア方針などを、ニーズに合わせて準備している。		
47	重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	ご本人やご家族の意向を踏まえたうえで、提携医と職員間で出来るケアを話し合い、ご本人にとって最良だと思われるケアを提供できるようにしている。		
48	重度化や終末期に向けたチームでの支援 重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている	医療と介護の境界について、常に検討している。過度な医療や介護がご本人の負担となりすぎないように、配慮している。		できる事とできない事について、全人的な見解で把握できるよう職員研修としてターミナルケアを学んでゆきたい。
49	住み替え時の協働によるダメージの防止 本人が自宅やグループホームから別の居所へ移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住み替えによるダメージを防ぐことに努めている	情報提供を確実にし、他施設での生活環境を極力悪変させないよう、協力している。ご本人、ご契約者了解の下、個別記録の提出をするなどして、環境の保全に努めている。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
その人らしい暮らしを続けるための日々の支援			
1. その人らしい暮らしの支援			
(1) 一人ひとりの尊重			
50	<p>プライバシーの確保の徹底</p> <p>一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報取り扱いをしていない</p>	<p>当該施設の理念に、利用者の尊厳を提示している。また、報告連絡相談、個別記録の記述の基本的な点について、勉強会を開催し、職員の研鑽の場を提供している。</p>	<p>利用者様の尊厳や誇りに関する部分は、デリケートであり、常に学習してゆかなければならない。今後も勉強会を定期的に行う。</p>
51	<p>利用者の希望の表出や自己決定の支援</p> <p>本人が思いや希望を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援をしている</p>	<p>ICFの研修を行っており、職員も利用者様を取り巻く環境の一因である事を周知させている。職員の対応によって、利用者様の自己決定の幅を広げる事も可能である事を、学んでいる。</p>	
52	<p>日々のその人らしい暮らし</p> <p>職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している</p>	<p>一日の生活の流れは、ある程度定まっているところもあるが、利用者様には当然、自己決定の権利があり、その際には、ご自身の希望に出来る限り添えるよう支援を行っている。</p>	
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援			
53	<p>身だしなみやおしゃれの支援</p> <p>その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し、理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている</p>	<p>ご本人が希望される理髪店などへ、通って頂いている。特に希望のない方に関しても、定期的に施設にて、理美容のサービスを提供している。御家族の協力もあり、衣替えなどもスムーズに行えている。介護主体の衣類選びにならない様に配慮している。</p>	
54	<p>食事を楽しむことのできる支援</p> <p>食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と一緒に準備や食事、片付けをしている</p>	<p>食事準備を利用者様とともに行っている。味の嗜好に関しても、どうしても苦手なメニューのある利用者様には別の献立を用意できるように配慮している。</p>	<p>おやつ作りなどは、利用者様とともに行う事も多くある。安全に配慮出来るのであれば、調理自体も利用者様とともに行う機会をもっと増やしたい。</p>
55	<p>本人の嗜好の支援</p> <p>本人が望むお酒、飲み物、おやつ、たばこ等、好みのものを一人ひとりの状況に合わせて日常的に楽しめるよう支援している</p>	<p>利用者様のADL,IADLにあわせ、趣味嗜好を活かせるよう、プライベートの場である居室は、職員の管理はあるものの、安全である限りは、自由に使っている。</p>	

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
56	<p>気持よい排泄の支援</p> <p>排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している</p>	<p>利用者様の排尿、排泄パターンを把握する努力をしており、トイレを使用して用を足せるよう、支援をしている。夜間ではポータブルトイレを使用して頂くなどして、仮におむつを使用していたとしても、なるべくトイレで用を足せるよう工夫をしている。</p>		
57	<p>入浴を楽しむことができる支援</p> <p>曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している</p>	<p>週に3日は入浴をして頂くようにしている。状況に応じて、シャワー浴を行ったりしている。菖蒲湯やゆず湯など、時季で楽しめる入浴の配慮をしている。仲の良い利用者様であれば、ご一緒に入浴なさる事も頻繁にある。</p>		
58	<p>安眠や休息の支援</p> <p>一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり眠れるよう支援している</p>	<p>和室を開放しており、横になってくつろぎたい方には、自由に休んで頂いている。</p>		
(3)その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援				
59	<p>役割、楽しみごと、気晴らしの支援</p> <p>張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている</p>	<p>何かをしたいと思う気持ちを大切にしてくケアを心がけている。自発的な行為に関しては、基本的に行って頂けるよう支援している。イベントの時には、利用者様が踊りを皆様に披露なさったり、歌を披露して下さったりと活躍の場が多い。</p>		
60	<p>お金の所持や使うことの支援</p> <p>職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している</p>	<p>金銭の基本的な管理は、施設で行っているが、ご本人が必要な時には、職員が支援する事で、金銭を使用して頂いている。買い物等に職員が同行し、ご本人のニーズに出来る限り沿った形での物品の購入を支援している。</p>		
61	<p>日常的な外出支援</p> <p>事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している</p>	<p>毎日の散歩、希望される利用者様の散髪、外食など、ニーズに合わせた外出の援助を行っている。季節を実感できるような外出の機会の提供など、日常的な外出について重視して支援を行っている。</p>		
62	<p>普段行けない場所への外出支援</p> <p>一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり、支援している</p>	<p>職員による働きかけで、一泊の温泉旅行に行っている。ご家族にもお声掛けをし、参加を募った。</p>		<p>各ユニットでの小旅行、あるいは利用者様の状況に合わせた形での外出の機会の提供など、取り組んでいきたい支援は多い。</p>

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
63	電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	利用者様によっては、自ら筆をとり、年賀状から日々の手紙まで、したため投函なさっている。また、電話で御家族とお話する時には、会話を楽しむ事が出来るよう、少し離れるなどして、プライバシーに配慮している。介助の必要な方については、絵手紙などを一緒に作成し、ご家族へ投函させて頂いている。		
64	家族や馴染みの人の訪問支援 家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるよう工夫している	面会時間を特に設けていない。玄関は日中開錠されており、自由に入出入りが出来るようになっている。和室、中庭もあり、面会の場は居室も含め多くある。職員には、心地よくお客様をお迎え出来るよう、指導をしている。		
65	身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束はない。身体拘束に関してはマニュアルを作成している。職員には老人虐待の研修も行っている。		継続して勉強会や研修の場を設け、職員の意識を高めてゆく。
66	鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	立地状況の為、玄関に関しては夜間施錠をしているが、日中は開放されている。利用者様ご利用される場に関しては、施錠は夜間以外一切していない。		
67	利用者の安全確認 職員は本人のプライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している	人員配置に関して十分であり、居室にいらっしゃる時の安全確認も含め、現状で滞りなく行われている。		接遇に対する意識を高める事で、時に不快感を招きかねない利用者様への安全確認等、見守り行為のストレスを軽減してゆきたい。
68	注意の必要な物品の保管・管理 注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている	利用者様の状態にあわせ、居室で管理して頂いて差支えないと判断したものは、ご本人にお持ち頂いている。包丁や工具、薬に関しては、職員室にて管理をさせて頂いている。		
69	事故防止のための取り組み 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐための知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる	事故に関しての緊急対応を含め、定期的に指導をしている。また、マニュアルを各ユニットに用意しており、閲覧出来るようにしている。		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
70	急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている	毎年、消防訓練とともに、緊急対応について訓練を行っている。提携医、看護師などから、応急手当の方法を学んでいる。		
71	災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	運営推進会議等で、地域の方とのコミュニケーションを図っており、災害時の避難の協力を働き掛けている。また、毎年消防訓練を行っている。		地域の方との連携を、更に円滑に図る事が出来るよう、協力体制について協議をしている。
72	リスク対応に関する家族等との話し合い 一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にされた対応策を話し合っている	訪問時、あるいは管理責任者、ユニットリーダーがご連絡をさせていただき、利用者様についての説明をさせて頂いている。		御家族との関係を更に密にし、ご本人の望む生活に近づけるよう話し合いを続けてゆきたい。
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援				
73	体調変化の早期発見と対応 一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気付いた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている	個別記録と申し送りの研修を行う事により、職員間での情報共有を的確に出来るよう配慮している。また、日々の気づきが大変な事を、常に管理責任者、ユニットリーダーから発信している。緊急時の連絡体制を周知させており、必要に応じては提携医や看護師への連絡も可能としている。		
74	服薬支援 職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	利用者様が内服されている薬の添付書類については保管をしている。また、すぐに確認できるようになっている。薬の重要性について、提携医や薬剤師からの情報提供もある為、職員も把握に努めている。		
75	便秘の予防と対応 職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけ等に取り組んでいる	利用者様にあわせ、食物形態を工夫したり、毎日の運動に腹筋を取り入れてみたり、日々の工夫を行っている。並行して、適切な水分摂取も出来るよう支援している。		
76	口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしている	食後必ず口腔ケアを行って頂いている。利用者様の状況に応じて、職員対応での歯科受診も行っている。		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
77	栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	利用者様にあった食物形態での食事提供を心掛けている。医師との連携により、食物摂取量や必要な水分量については配慮をしている。一回の食事では、なかなか栄養量が足りない場合は食事時間を増やしたりするなど、工夫をしている。		
78	感染症予防 感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している（インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等）	感染症マニュアルを作成しており、また、職員には、感染症に対する警戒心を高めるよう、指導をしている。感染症の流行する時期には、提携医からの指示や管理責任者、ユニットリーダーの指導で、予防の強化を図っている。		
79	食材の管理 食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている	各ユニットにある台所用品に関しては、職員が毎日消毒している。台所についても毎日掃除を行い衛生管理を行っている。日々の食材については厨房担当による衛生管理を徹底している。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり				
(1) 居心地のよい環境づくり				
80	安心して出入りできる玄関まわりの工夫 利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている	建物の周囲には植木を、玄関周りには花を植え、和める環境づくりに取り組んでいる。車による来訪も出来るよう駐車場を用意している。		
81	居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	各ユニットには、季節の花を飾るなどして、四季を目で楽しんでいただける工夫をしている。日当たりの良い和室などでは障子などで、光の調整をしている。毎日目にする事のできるようカレンダーをフロアにいくつか用意しており、利用者様によっては、マジックでその日をチェックされている。		
82	共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中には、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	フロアにはテレビを囲んでソファでくつろげるようにしている。また、和室にはご本人様のアルバムを用意しており、ゆったりと過ごせるよう配慮をしている。和室は掘りごたつになっており、冬には、こたつでうたた寝といった日常生活も過ごせるよう配慮している。		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
83	居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	ご本人の必要と思われるもの、大切に思っている品物を入居の時点で、ご本人、御家族と相談した上で、持参していただいている。生活してゆく中で必要になる品物については、ご家族とも相談し、購入をさせて頂いている。		
84	換気・空調の配慮 気になるにおいや空気のだよみがないよう換気に努め、温度調節は、外気温と大きな差がないよう配慮し、利用者の状況に応じてこまめに行っている	換気に配慮しており、各居室、フロアには換気扇がある。空気の入れ替えは随時行っている。室温計を、フロアと各居室に用意している。		
(2)本人の力の発揮と安全を支える環境づくり				
85	身体機能を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの身体機能を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	施設内はバリアフリーになっている。廊下には手すりをつけており、自立の援助になっている。		ICFを正しく理解し、スタッフが利用者様と協働できれば、施設環境とあわせて自立した生活の、更なる支援になる。
86	わかる力を活かした環境づくり 一人ひとりのわかる力を活かして、混乱や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工夫している	声掛けの仕方など、職員自ら注意喚起し、ご本人のやる気や根気を削ぐ事のないよう留意をしている。		職員の介入の仕方などにも、利用者様に合わせた工夫が必要で、現状に満足せず、更に勉強をしてゆきたい。
87	建物の外周りや空間の活用 建物の外周りやベランダを利用者が楽しんだり、活動できるように活かしている	中庭が用意されており、洗濯物や布団はそこで干している。中庭でお茶やバーベキューをするなど、日常的に使用している。		

. サービスの成果に関する項目		最も近い選択肢の左欄に をつけてください。	
項 目			
88	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる	ほぼ全ての利用者の	
		利用者の2/3くらいの	
		利用者の1/3くらいの	
		ほとんど掴んでいない	
89	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	毎日ある	
		数日に1回程度ある	
		たまにある	
		ほとんどない	
90	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	ほぼ全ての利用者が	
		利用者の2/3くらいが	
		利用者の1/3くらいが	
		ほとんどいない	
91	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている	ほぼ全ての利用者が	
		利用者の2/3くらいが	
		利用者の1/3くらいが	
		ほとんどいない	
92	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている	ほぼ全ての利用者が	
		利用者の2/3くらいが	
		利用者の1/3くらいが	
		ほとんどいない	
93	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごしている	ほぼ全ての利用者が	
		利用者の2/3くらいが	
		利用者の1/3くらいが	
		ほとんどいない	
94	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている	ほぼ全ての利用者が	
		利用者の2/3くらいが	
		利用者の1/3くらいが	
		ほとんどいない	
95	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています	ほぼ全ての家族と	
		家族の2/3くらいと	
		家族の1/3くらいと	
		ほとんどできていない	

項 目		最も近い選択肢の左欄に をつけてください。	
96	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている	ほぼ毎日のように	
		数日に1回程度	
		たまに	
		ほとんどない	
97	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている	大いに増えている	
		少しずつ増えている	
		あまり増えていない	
		全くいない	
98	職員は、生き活きと働けている	ほぼ全ての職員が	
		職員の2/3くらいが	
		職員の1/3くらいが	
		ほとんどいない	
99	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	ほぼ全ての利用者が	
		利用者の2/3くらいが	
		利用者の1/3くらいが	
		ほとんどいない	
100	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	ほぼ全ての家族等が	
		家族等の2/3くらいが	
		家族等の1/3くらいが	
		ほとんどできていない	

【特に力を入れている点・アピールしたい点】
 (この欄は、日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入してください。)

職員と利用者様の関係が、単なる介護者と被介護者とならないよう、施設理念である『人としての尊厳を守る』を遵守し、より良い人間関係を構築できるよう、日々研鑽している。その為の職員指導に関しては、特に力を入れており、日常業務の中でも、管理責任者やユニットリーダーが、常に声をあげている部分である。その成果として、理念のひとつでもある、『ゆっくりとゆったりとした安心と安らぎのある暮らし』の提供に繋がっていると考えている。利用者様はみな平等であるという考え方から、利用者様はみな特別である、という一歩進んだ考え方へ、実践出来つつある。